

## 【巻頭言】

## 学友会会長に就任して



会長 <sup>にしき しげお</sup> 錦 成郎(54 回生)

2023 年度から学友会会長に就任しました 54 回生 錦 成郎です。浅学非才で特段これという取柄はありませんが、理事会、地方支部のお力を拝借しながら歴史ある学友会を盛り立てるお手伝いのできたらと考えています。ここに紙面をお借りしてご挨拶を申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

ここ数年間は、世界中でパンデミックを引き起こした Covid-19 の煽りを受け、学友会活動も抑制せざるを得ない状況が続きましたが、やっと出口が見えそうな気配となってきました。これまで人類はペストやコレラなどの甚大な被害をもたらした感染症は経験済みであり、近代医学をもってすれば制御できるのだろうと勝手に思い込んでいましたので、今回のように突然現れた未知の感染症に対して、こんなに世界中が大混乱に至ることは想像できませんでした。これまでにない恐怖を感じられた方も多かったと推察します。

さて、本学友会は専門学校から短期大学、大学と変遷を重ねるなかで巣立った約 5,000 名の卒業生で支えられています。学友会のホームページによると、本会は 1927 年「島津レントゲン技術講習所」が開校した翌年の 1928 年 3 月に「島津レントゲン技術講習所学友会」として発会しました。この当時から同窓生だけでなく在校生や教員も一緒になった斬新な組織を有する学友会として、今年で 96 年に渡る歴史を刻んできました。このような歴史に裏打ちされた学友会会長という大役をお引き受けするにあたり、まさに身の引き締まる思いです。取りも直さずこれまでお世話になった恩師、諸先輩方への恩返しのため精いっぱい努めたいと考えています。

おそらく校風に由来すると思いますが、学友が集う場にはいつも暖かい空気を感じることができます。だから自然と安心した気持ちになれるのだと思います。この独特の雰囲気を出し出す人のつながりを大切にして、会員の皆さんが今まで以上に興味を持って参加していただける学友会でありたいと強く思っています。この方策の一つとして、学友会の理事会に多くの若い人材に参画していただいて意見を述べていただくことで、広い世代に喜んでいただける学友会を目指していきたいと考えます。皆様のご支援とご協力をお願いします。

私事で恐縮ですが、これまでを振り返ると節目には必ず恩師の的確な導きがあり、それに従って歩んできました。まず、就職について山田勝彦先生に相談したとき、「奈良県に天理よろづ相談所病院という立派な病院があるから、そこを受けなさい」とご指示いただき就職。それから 2022 年 3 月まで 42 年間勤めるなか、多くの貴重な経験をさせていただきました。これは誰もが語ることですが、本学の偉大さを実感するのは社会に出てからです。私が長く関わっている日本放射線技術学会は多くの卒業生が活躍され、学会長や理事、監事などの要職を務められました。従って先輩とはいっても雲の上の存在で近寄り難い存在です。しかし、実際には先に述べたような空気感のなかで声をかけてくださるので、何でも安心して相談でき心強かったというのが実感です。これが学友会の伝統の証なのでしょう。私は学友会に 2015 年から理事として参画したのですが、2 年後の 2017 年には早くも副会長に就任することになりました。このときの西谷源展先生からのご指示は、「玉田 彰先生が次期会長なので、あなたは副会長をやってくれるか」という一言でした。今回の会長就任の件も大同小異でした。学友会を心から愛して、常に先陣を切って牽引してこられた西谷源展先生の脳裏には、きっと学友会の未来予想図が描かれているのだと確信しています。

最後になりましたが、学友会も世代交代の時期を迎えています。数年後には設立 100 周年の節目を迎えます。この記念すべき佳日を卒業生が総出でお祝いする機会にしたいと考えています。専門学校から短期大学、大学へ学友会のバトンをつなぐ大きなチャンスにしたいのです。会員の皆様のご積極的な参画とご協力を期待しています。また、これから各支部活動も本格的に再開されると思いますが、ぜひ支部総会は、短大、大学の卒業生がたくさん参加したくなるような魅力溢れる企画を鑄めていただきたくご検討ください。

それでは今後ともご協力をお願いするとともに、会員の皆様のご健康とご活躍をお祈りして筆を置きます。

以上